

第3回 あいち多文化共生タウンミーティング 2021 開催結果報告書

2021年12月4日(土)、愛知県は「多文化共生って?～これからできる支援について考えよう～」をテーマにタウンミーティングを行いました。今年は学生を対象に、全3回の連続講座として企画し、第3回は10名の大学生に御参加いただきました。開催結果は、以下のとおりです。

開催概要

テーマ 「多文化共生って?～これからできる支援について考えよう～」

場所 あいち国際プラザ2階 アイリスルーム

日時 2021年12月4日(土曜日)午後2時から午後5時まで

当日の流れ

1 愛知県取組紹介 (説明者 愛知県多文化共生推進室職員)

2 事例報告

①愛知教育大学4年生 近藤 来美氏

②ボランティア活動参加者 水谷 風和氏

3 ワークショップ

1 愛知県の現状紹介

事例報告やワークショップの参考としていただくために、愛知県が多文化共生の推進に向けて取り組んでいる事業を紹介しました。

2 事例報告

参加者の皆様と同年代で、様々なボランティア活動に参加経験のある近藤様と水谷様に、活動の経緯や活動を通して感じた多文化共生の課題等についてお話しいただきました。以下はお二人の報告内容の要約です。

① 愛知教育大学4年生

近藤 来美氏

中学生の頃に、母の仕事の関係でタイやベトナムの方と関わるようになり、国際交流や多文化共生に興味を持つようになりました。実際に活動を始めたのは大学生になってからです。サークルやボランティアを探して、活動を始め、そこでできたつながりから、日本語のサポート活動や生活に関する支援など活動を広げてきました。



私が参加してきた活動は主に、日本語の補助と生活支援の二つに分けられると思います。日本語補助の活動では、地元の公立小学校で、外国にルーツをもつ子どもたちの授業に入り込み、ひらがなや漢字など日本語のサポートをしていました。生活の支援では、コロナ関係の助成金申請を始めとした、書類手続きのお手伝いをしました。その他にも多文化交流に関するイベントのボランティア活動に参加しました。こうした活動へは、大学の先輩から情報収集をしたり、見つけた団体の活動目的や趣旨を調べ、自分のやりたいことができるかどうかを大切にしながら参加するようにしています。情報を集めて、参加したいと思うものがあればすぐに連絡し、ご縁がある内に自分をつなぐように努めています。また、直接話を聞きに行くことが大切だと思っています。今はインターネットで調べることができますが、実際に関わっている人たちの話を聞くと心境に変化があったりするので直接聞くことをおすすめします。

こうした活動を通じて、外国人という言葉で一括りにせず、一人一人のバックグラウンドを知ることが大切だと感じました。背景事情を知らないということは、多文化共生を考える際の重要な課題の一つだと私は感じています。例えば、外国人住民と留学生では抱える事情は大きく異なると感じますし、国籍によっても様々です。こうした背景事情を知らないと、知らないうちに彼らを傷つけてしまったり、できることもできなくなってしまうたりすると思います。



② ボランティア活動参加者

水谷 風和氏

私がこれまでに参加してきた活動は、主に4つです。一つ目は、It's me camp というイベントで、日本人と、日本に住む様々な国籍の人が参加し、交流する内容です。最初は、参加者として参加し、その後はボランティアとして毎年参加しています。二つ目は、The small world のゴミ拾い活動で、日本に住むドイツ人が活動を立ち上げ、名古屋で毎月週末にゴミ拾い活動

をしています。三つ目は一般社団法人で、多文化カフェの立ち上げに参加しました。そして、これらの活動の原点になっているのが、四つ目の、高校生の頃に参加した3日間のボランティア養成講座です。この講座に参加した際の出会いが繋がって、これまで活動を広げてきました。

こうした活動に興味を持った最初のきっかけは、小学生の頃に家族で行った海外旅行です。そこで始めて外国の文化や英語に触れて、なんとも言えないワクワク感を感じました。また、国際交流は英語以外の言語にも触れられる機会であると知ったことも、理由の一つです。活動を続ける中で日本に住む外国ルーツをもつ人が抱えている課題や様々なバックグラウンドを持つ人に会い、多文化共生について様々なことを考える機会になりました。特に、TCK(Third Culture Kid)^{*}について考えるようになり、自分は何人なんだろう、という悩みを持つ人がたくさんいるということを知りました。今後も、留学やボランティアなど、活動を続けていきたいと思っています。

日本に住んでいる同世代の外国人住民の方はもっと日本人と関わりたいと思っていても、なかなか上手く関わる機会が少ないという人も多くいると感じます。外国人住民と日本人が良い関係を築いていく環境を作るために、どうすれば良いか、私たち若い世代の人が考えていくべきだと思います。これまで、いろいろな活動に参加してきましたが、ボランティア等に参加する人は友達同士よりも一人で参加する人がたくさんいます。参加してみたいと思う活動があれば、一人でも積極的に参加してみたいです。

※両親が国籍を置いている国とは異なる国で幼少期の大部分を過ごした人を表す

3 ワークショップ

ワークショップでは、前半に深掘りインタビューとして、事例報告者のお二人とそれぞれ質疑応答を行いました。ワークショップの後半では、ワークシートに沿って、外国人支援に関する現状や課題について、事例報告をもとに話し合い、実際に私たちに何が出来るかを考えました。さらに、グループワークでの話し合いをもとに、明日からの行動目標を一人一人宣言していただきました。以下、各グループでの発表の結果を御報告いたします。



A グループ

Aグループでは現状として、多国籍化が進んでいるという意見が出ました。英語以外の言語や他国の文化は、学校で学ぶ機会が少なく、日本人にとって理解することが難しくなっていると思いました。また、日本人特有の島国意識により、外国人をゲストのような視点で見ってしまうことで固定概念やステレオタイプがあることも現状の課題として挙がり、日頃から頼れる人や相談できる場所があることは重要な

ことであると感じました。また、愛知県は外国人住民が多く、外国人住民同士のコミュニティが確立していることも、日本人が入りづらくなるため、重要な課題だと思います。

外国人と日本人という観念や、サポートする側、される側という枠組みに囚われないようにすることが重要だと思います。そのために、多文化交流ではなくて、地域交流を進めていくことで、外国人住民の方も主体的に参加できる関係づくりをしていきたいです。まずは、気軽に地域の人に挨拶をするところから始めていけると良いのではという意見にまとまりました。

B グループ

Bグループの話し合いで出た課題として、地域の日本人住民の理解が足りていない、外国人住民に対する無関心など、日本人側の問題が多く出ました。そこで、日本人に対して何ができるかという視点に重きを置いて話し合いました。



私たちにできることとして、二つのアイデアが出ました。一つ目は、子どもたちの興味を引くイベントを私たちが開催することです。子ども向けのイベントであれば、保護者や祖父母も一緒に来てもらうことができ、世代間交流等にも繋がっていくので、そこで外国人住民への理解が深まって欲しいです。大学で、スポーツのイベントを子ども向けに行った際、解説等は子どもよりも保護者が耳を傾けてくれていた経験があり、多世代に情報発信する良い機会になると思いました。二つ目は、SNSや新聞広報での発信です。私たちがまずできることは関連イベント等をSNSでの発信することだと思います。そうすることで、周囲の大学生にも伝えることができます。また、高齢者等に対しては、新聞やまちの広報誌などで情報発信できたら良いのでは、という意見が出ました。

個人で掲げていただいた行動目標では、「帰ったら今日の出来事を友達や家族に話す」や「ご近所さんへの挨拶から関係づくりを始める」などの目標が挙がり、身近なところから行動している姿を見ることができました。

最後にワークショップについて、近藤様、水谷様から、行動目標にぜひ取り組んでもらいたいです、「挨拶」から「少し雑談する」へ、ここにいる私たちから少しずつ関係づくりを広げていけると良いと思います、とコメントをいただきました。多文化共生の推進には、一人一人の行動が必要不可欠です。小さなことから少しずつ活動の輪が広がって欲しいと思います。

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。(初参加の参加者のみ回答)

チラシ	0
県のホームページ	1
知人からの紹介	2
SNS	0
所属からのメール	3
その他	3
無回答	0

【その他】大学からのメール

2 今回参加しようと思った理由は何ですか。

- ・勉強になるから。
- ・「多文化共生」に関して新たな知見が得られると考えたから。
- ・外国にルーツのある子どもと接する機会があったから。
- ・多文化共生について、どのような活動があるのかを知りたかったから。
- ・より良い社会を作っていきたいから。
- ・共生に興味があり、意見交換をしたかったから。
- ・興味があったから。
- ・多くの方の意見を聞きたかったから。

3 事例報告の感想をお聞かせください。

とてもよかった	9
よかった	1
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0

感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

活動を進める上での参考になった	7
これまで知らなかった内容を聞くことができた	8
聞いた事がある話ばかりだった	0
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	4
テーマについてもっと知りたいと思った	3
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	6
その他	1

【その他】自分でもできることが多くあると気づくことができた。

4 ワークショップはいかがでしたか。感想をお聞かせください。

とてもよかった	7
よかった	3
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0

感想の理由をお聞かせください。

- ・愛知の思考がよく分かった。
- ・自分が良かれと思ってやっていたことがかえって差別になっていると気づけた。人との関わり方を改めるきっかけになったと思う。
- ・外国にルーツのある方の現状を改めて整理することができました。
- ・同年齢の人と意見交換することで、自分が今から・これからでもできることがあると実感することができた。
- ・他の参加者の方々がどのような活動を行っているかを知ることができたから。
- ・色々な活動をされている方を知ることができたため。
- ・共生について一緒に考えることができ、いろいろな人の意見を聞くことができたから。
- ・自分と異なる考え、経験を聞けたから。
- ・様々な意見を聞くことができ、自分にはなかったアイデアをいただくことができました。
- ・メンバーの体験も聞けて、外国の方に対する自分の観念に改めて気づかされ、勉強になりました。

5 今回のタウンミーティングについて改善点や感想があれば教えてください。

- ・時間をもう少し長く取るか、内容をどれかに絞るかできたら良いかなと思いました。
- ・事例報告者の方々から、様々なボランティアなどの活動を知ることができました。今まで、多文化共生の活動をまったく知らなかったのので、今回の活動を調べたいと思います。
- ・インタビュー時間が足りず、深掘りしきれなかった。20分くらいが良いかなと感じました。
- ・今回初めて参加して、自分にできることをみんなと意見交換しながら話すことができ、有意義な時間になりました。
- ・お互いがどんな思いでどんな活動をして、どんな理由でここに参加することができたかも交流できたら、もっと刺激になったかなと思いました。
- ・内容がとても充実していて、3時間過ぎるのがあっという間でした。
- ・多文化共生に対して改めて理解を深めることができました。
- ・同世代の方の話の聞けたことは、より身近に問題意識を持つことができたと思う。
- ・楽しかったです。ファシリテーターはいらないかも。進行ではなく参加者になっていた。ファシリテーターの意見が多くて参加者の意見を出しづらかった。

6 今後、今回のようなタウンミーティングでテーマとしたいこと、やりたいことなどがあれば教えてください。

- ・今回のように学生目線のミーティングはもっとあっても良いと思った。
- ・外国にルーツのある子どもを対象にした勉強会などがあれば、良いかなと思いました。教え方を学びたいです。
- ・愛知県が行っていること(多文化子育てサロンや初期日本語教育モデル事業など)を学べる機会があると嬉しいです。

- ・今の市の多文化共生への取組について議論したい。
- ・地域間で行われるような活動があれば参加したいです。

7 愛知県の多文化共生への取組について、何かご意見があれば教えてください。

- ・市(日本人)企画だけでなく、外国人企画のイベント等があっても良いかなと感じます。

8 回答者様についてお教えてください。

高校生	0
大学生	10
大学院生	0
その他	0

今回、初めての参加の方にお聞きします。

普段、多文化共生や国際理解教育に関する活動をしていますか。どんな活動ですか。

- ・所属ゼミで外国籍住民の方のお店取材しました。
- ・日本語教室

おわりに

今回のタウンミーティングを通して、多文化共生に関心のある方や携わる方が、一人でも多くなると幸いです。参加して下さった皆様、ありがとうございました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、2018年3月に策定した「あいち多文化共生推進プラン 2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしています。日頃、多文化共生に関心を持って活動されている方も、そうでない方も、参加していただくことができます。今後も開催して参りますので、ぜひ御参加ください。



愛知県多文化共生シンボルマーク